

公立尾陽病院を  
より知っていただくために…

## 公立尾陽病院の 感染症治療

内科 松本 一明



感染症、例えば肺炎、膀胱炎などの治療には主に抗生剤を用います。肺炎、膀胱炎や腎盂腎炎などの尿路感染症は「グラム染色」を用いて抗生剤を決定することが一般的になってきています。

グラム染色とは一体どんなものなのでしょうか。

それは細菌類を色素によって染色する方法で、細菌を分類する基準の一つです。例えば肺炎が疑われる患者さんでは、痰を採ってもらい、それをプレパラートに塗り付け、乾かして、数種類の染色液をかけて、洗い流して標本が出来る上がります。これを顕微鏡でのぞくと、細菌や白血球の様子が手に取るように分かるわけです。グラム染色で感染の原因となっている菌の種類や病気の勢いを予測することができます。

一方、感染症の原因菌を確実に同定する一番の方法は、検体を培養して菌を調べる方法です。しかし、この検査の結果が出るには数日かかるため、状態が悪い患者さんを目の前に、培養結果が出るまでのんびり待つというのは現実的ではありません。しかし、一定の抗生剤の使用を続けると、その抗生剤に効かない、いわゆる耐性菌が出現します。このような耐性菌の発生を防ぐためには、最初の抗生剤を選ぶ時点で、できるだけ原因菌を絞り込み、それに合わせた抗生剤を選択して治療を開始し、さらに数日後に判明する培養結果をもとに、「原因菌を狙い打ち」する抗生剤に変更し、そして治療の必要性がなくなれば直ちに抗生剤投与を終了することが重要となります。

そこで、非常に有効な武器となるのが「グラム染色」です。グラム染色は検体さえ得られれば、数分で診断が可能であり、細菌の種類・量・炎症の強さなどを予測できます。そして、その結果を直ちに治療に反映できるのが最大の特徴です。

公立尾陽病院では、日々の診療に、この「グラム染色」を積極的に導入しており、それを参考にして治療開始を行っています。

### 問い合わせ先

公立尾陽病院  
〒490-1111  
基目寺町大字基目寺字  
山ノ浦148番地  
・問い合わせ時間  
午前8時30分  
～午後5時15分  
※土日・祝日は除く  
☎(444)0050  
※医療看護の相談に対する  
お問い合わせは、内線2  
11の医療看護相談室ま  
でお願います。  
FAX (444)0064  
HP <http://www.biyohosp.jp/>

## 今月の記念日

5月5日は  
「わかめの日」

体に良い栄養成分が豊富なわかめを、より多くの人に食べてもらおうと、日本わかめ協会が制定しました。

おいしい新わかめが市場に出回るこのころ、やはり出回る旬の食材がタケノコです。この二つを取り合わせた定番の煮物「若竹煮」など、季節にふさわしい味を味わってもらうことで、わかめの魅力を堪能してほしいという思いも込められています。

わかめに多く含まれている成分といえは、「食物繊維」と「ミネラル」。食物繊維のセルロースは、腸を刺激して動きを活発にし、便が腸に長くとどまるのを防ぐため、大腸がんの予防につながります。

わかめのヌルヌルしたぬめりの正体は、主にアルギン酸という食物繊維。アルギン酸は他の食物中の塩分と結び付いて、塩分を体外に排出する働きがあり、血

圧の上昇を抑える効果があります。

人間になくしてはならない栄養素といえばミネラルですが、わかめには陸上の食物より種類も量も多いミネラルが含まれています。

小魚にも負けないくらい含まれているというカルシウムは、丈夫な歯や骨をつくるという大事な働きほかに、イライラ防止に効果があるといわれています。そのほか、新陳代謝を活発にするヨウ素や、発育を促し、老化を防ぐビタミン類なども豊富です。

大事なのは、これらわかめの成分を日ごろからバランスよく上手にとること。同協会ホームページには、春のメニューに加えた「旬の山菜たっぷり五目若竹煮」や食物繊維たっぷり「わかめと筍の木の芽春司」、野菜嫌いの子どもや夏バテ予防にもいい「わかめとピーマンのチーズチャールハン」など、わかめを使った簡単レシピが紹介されています。これからの季節にぴったりの味を、味わってみてはいかがでしょう。